

「Fukuoka Art Next」今月のアート（12月）

福岡市は、彩りにあふれたアートのまちを目指して、暮らしのなかで身近にアートに触れる機会を増やし、アーティストの成長支援に取り組む「Fukuoka Art Next」を推進します。

市民がアートを身近に感じられるよう、福岡で活躍しているアーティストの作品を、月初めの定例会見において紹介します。

■ アーティストについて

加藤 玄彰（かとう げんしょう）

福岡県出身、福岡市在住。感性を揺さぶる被写体を求めて全国を渡り歩くフォトグラファー。各地の風物、人々の営み、歴史の痕跡などを様々な撮影技法を駆使してドラマティックに写し出す。油彩を描いていた経験を活かし、絵画作品と見まごうようなフレーミング、写真表現も得意としている。（公社）日本写真協会会員。2024年「Fukuoka Wall Art Project」優秀賞。

■ 作品について



作家名 : 加藤玄彰
作品名 : 鵜の叫び
制作年 : 2016年
材質技法 : 写真
サイズ : 42.0×59.4 (cm)

しんと雪が降る中、池に打たれた杭の上にカワウの群れが留まって身を丸くしています。そのうちの一羽が天を仰ぎ、嘴（くちばし）を大きく開けています。まるで「春よ来い！」と叫んでいるかのような瞬間です。本作は12月、大濠公園の池で撮られたものです。雪の一粒一粒が点描のように画面全体を覆って、一瞬の情景をドラマティックに写し出しています。「冬来たりなば、春遠からじ」の心情を掻き立てる作品です。

【お問い合わせ先】

経済観光文化局美術館学芸課 担当：後藤、ラワンチャイクン

TEL：714-6054 FAX：714-6145 E-mail：rawan@fukuoka-art-museum.jp